2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">心理学実験 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間社 2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">井上 徹 田沢 晶子</p>
<p>授業テーマ</p> <p>「心」を科学的に捉える。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>さまざまな心理学基礎実験を通して、心理学における基本的な実験の方法、実験の進め方、結果の処理及び結果の記述の仕方などを学習する。「心」を科学的に捉えることが目標である。受講者は互いに実験者および被験者になる。また一般の学生にも被験者になってもらい実験を行う。</p>		
<p>評価方法</p> <p>各課題について提出するレポート（80%）＋ 出席状況（20%） 授業へ取り組む姿勢、理解への意欲度、仲間への貢献度も考慮します。</p>		
<p>テキスト</p> <p>実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）</p>	<p>著者</p> <p>心理実験指導研究会</p>	<p>出版社</p> <p>培風館</p>
<p>参考書</p> <p>実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）</p>	<p>著者</p> <p>心理実験指導研究会</p>	<p>出版社</p> <p>培風館</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3－4名をひとつの班とする。班として各実験課題に取り組み、各自でレポートを作成し、結果を発表する。 2. 1つの実験課題は、3週間に1つの割合で実験を行い、レポートを作成・提出（4週目）する。 <ol style="list-style-type: none"> 1週目 実験の概要と背景の説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など 2週目 実験データの収集、集計・分析方法の指導 3週目 結果分析、レポートへのまとめの指導 4週目 次の実験の概要説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など (同時に、各自が作成した前回実験のレポートを提出する) 3. 各実験課題は、次の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> (1) ミューラーリヤの錯視 ミューラーリヤの錯視図を用い、調整法によって錯視量を測定する。さらに錯視を規定する要因を考察する。 (2) 触2点閾 <ol style="list-style-type: none"> ①極限法を適用し、身体のいくつかの部位での触2点閾を測定する。 ②閾値の変動について、信号検出理論を考える。 (3) 重さの弁別閾 恒常法によって重さの弁別閾を測定する。恒常法の手続きと「閾」の定義を理解する。 (4) 両側性転移 鏡映描写器を用いた、鏡映描写学習（利き手→非利き手→利き手など）から、転移の現象の有無を考察する。 <p>[受講の条件]</p> <p>1 回生配当の「統計学 A および B」また「心理学研究法」を履修済みであること。 もしくはこれらの科目を同時に受講していること。</p> <p>[人数制限]</p> <p>実験器具の数に限りがあるため、受講定員を40名とします。心理・カウンセリングコースの学生を優先し、人数に余裕があれば、他のコースの学生も受け入れます。希望者が定員をオーバーする場合は、抽選します。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出てください。その場で抽選します。1回目の授業を連絡なく欠席した場合は、後で希望しても履修登録はできません。</p>		